立命電友会
RITSUMEI DENYŪKAI
No. 60

目次

P1-2　巻頭言
P2-4　退職のご挨拶
P4-5　新任のご挨拶
P6　関東立電会総会
P6-7　就職状況（1）（2）
P8　修了・卒業祝賀会祝辞
2022年度表彰者一覧
P9　学系だより、訃報、
事務局だより

巻頭言

半導体の変遷と共に歩んだ営業百戦

立命電友会関東支部　幹事
浜　崎　博　明（1976年電気工学科卒）

■ 大学時代

私の大学時代はジャズ・ロックが好きで授業が終わると友人と伴に衣笠→広小路キャンパスまでスクールバスで移動、今出川辺りのジャズ喫茶に通ったものです。

４回生になると中村先生のもと雷のメカニズムを研究、後にNHKが超スローモーションで雷を撮影、実際に空気を電離（プラズマ化）しながら進んでゆく様を見て、卒論が証明されと感激しました。

■ 半導体との出会い

いざ就職となるとオイルショックで就職難、年が明けた時に浦山先生から30名足らずの商社だけど受けてみないかと紹介されたのが日立の子会社の日製電子です。当時の半導体は真空管からトランジスタへ更に集積回路（IC）への黎明期でした。

入社すると大先輩は浦山先生の同窓生でした。半導体商社の営業には技術が分かる人材が必要と先生に依頼され、以後数年間に亘り後輩が入社しました。

’76年入社後、直ぐに日立の武蔵工場のリニアIC設計に実習生として派遣され、いきなりカーオーディオ用ICの設計を任され、大学時代余り熱心でなかった電子回路と論理回路を慌てて勉強、指導を受けながら設計完了、無事動作し製品に採用されました。

この時の経験と人脈がその後の営業活動で活かされました。

■ ’70年代；ICの黎明期

１年の実習を終え東京でフェライトメーカーや計測器メーカーの担当、トランジスタやダイオードを始め海外の半導体メーカーの互換製品のICを売り込む日々が続きました。

日本の半導体各社は切磋琢磨し、価格と高品質を武器に売上が伸び、会社も100名を超えるまでに、成長しました。

■ ’80年代；ICメモリによる成長期

新興のパソコンメーカーを担当、ICメモリ・リニアIC・マイコンなど顧客と工場の設計部門との橋渡し、ソフトウェアのライセンス契約など関連部署との調整に奔走、’84年盛岡へ転勤、営業所開設を任され、記憶装置やプリンタメーカーを担当しました。

当時のICメモリは各社が３年で集積密度が２倍と言うムーアの法則に則り設備投資し微細化競争、D-RAMは16KB→64KB→256KB→1MB→4MB毎にNEC・日立・東芝と順位が入れ替わり、世界のTOP3を日本勢が占めるに至り世界を席巻、一方米国の半導体メーカーは衰退、米国と貿易摩擦が勃発しました。

■ ’90年代；非メモリに挑んだ成熟期

ダンピングの疑いを掛けられた日本のD-RAMには値上げせよという行政指導を受け、日本の半導体各社はメモリビジネスを縮小、最大の儲け頭を失う中、営業には非メモリで売上拡大が至上命題となりました。

’90年松本でマイコンを拡販せよと転勤、プリンタメーカーを任され、インクジェットプリンタのカラー化のタイミングでマイコンを採用頂き、試作機で金色が本当に金色に印刷されたのを見て感動しました。

’94年松山に転勤、記憶装置メーカーにリニアICやFlashメモリ内蔵マイコンの採用を頂き、業界全体で採用され、’99年再び松本に戻りプリンタメーカーの海外展開のサポートをしました。

その頃、日本の半導体各社は最大の収益源であったメモリビジネスの縮小が設備投資の遅れに繋がり、各社の中で半導体部門は徐々にお荷物扱いにされるようになり、世界では供給元を米国の支援を受けた韓国や台湾の半導体メーカーが台頭、代替してゆきました。

■ ’00年代；メーカー再編の衰退期

欧米では既に大手電機メーカーが半導体部門の切離しが始まり、日本では’02年にNECが、’03年には日立と三菱の該当部門が合併、更に’10年にNECエレ

クトロニクスが加わりルネサスエレクトロニクス（以下、ルネサス）が誕生しました。

私が入社した日製電子は吸収合併を繰返し、名前を変えながら、最後はルネサス販売となり社員も 1,000 名超える大会社になりました。

昨日までの敵は今日は友、企業文化の違いにも戸惑いながら融合に腐心した日々、しかし売上は依然として厳しく 1 ＋ 1 ＋ 1 ＝ 1.5 と減少、人員削減のためリストラが行われ、私は ’05 年 21 年間の地方拠点勤務から東京に戻り韓国営業を命じられ、現地の営業の皆さんと一緒に拡販に邁進し、’08 年にルネサスとしての営業を引退し、三菱系の特約店に転籍、’16 年まで韓国や中国・東南アジアで半導体営業に従事しました。

■ ’10 年代～；日の丸半導体の復活

ルネサスは選択と集中や構造改革、海外メーカーの買収などにより ’20 年に復活、今や車載用半導体では冠たる会社に変貌しました。

米国と政府の支援を受けた先端半導体の製造に特化したラピダスが誕生し、台湾メーカーも日本で生産拠点を構えるなど、今や再び半導体は重要な産業になって来ました。

■ 感謝と期待

私に半導体と巡り合わせて頂いた大学と先生、及び先輩の方々に感謝し申し上げます。また、今や日本の半導体業界の最大課題は人材確保となっており、更なる母校から優れた人材の教育と輩出を期待しております。

私たちは先輩の方々が始められた関東立電会を立命電友会関東支部へと引継ぎ、その幹事として次の世代の卒業生へと引継いで行きます。

退職のご挨拶

退職のご挨拶

電子情報工学科　教授　**福井　正博**

私は 2003 年 4 月に電気電子工学科に着任し、翌年新学科として半導体集積回路の設計（デザイン）人材の育成を目的とした電子情報デザイン学科の立ち上げの一員として加わることとなりました。

当時の日本の半導体産業は 1990 年代をピークとして国際競争の真っただ中にあり、システム LSI と言ってディジタルテレビやブルーレイ、高機能携帯電話等の情報家電システムを支える産業の最先端技術の核といえる開発が中心となっていました。それまでは、ただ高性能で高信頼なものを早く安価に作る技術が求められていたのに対して、よりシステムオリエンティッドでハードウエアもソフトウエアも巨大化した知識集約の極みともいえる産物を扱うことが求められていました。半導体集積回路の設計はその企画からシステム動作、機能、検証、論理回路、レイアウト設計、実装と設計の上流から下流の流れの中でより上流のシステム設計とより下流のデバイスの高性能最適化低電力化といったものが競争の源泉として、研究力高度化と高度人材の育成が求められていました。

私はもともと企業（パナソニック、当時は松下電器産業）にて、半導体設計の下流（性能最適化、自動化、低電力化など）を中心に研究開発の活動をしておりましたので、ご縁があって本学に着任したときはそれらの技術を中心として研究と教育をスタートしました。

優秀で意欲的な学生にも恵まれ、初年度から集積回路の高信頼化や電力解析の分野で国内外の学会で評価されるような結果を出していくことができました。私はもともと研究エフォートの三分の一程度は新規分野への展開に充てることをモットーとしており、一つは自動車の自動運転にかかわる画像認識技術とその実装と検証のためのモデルベースシステム設計技術に領域を広げました。当時、STARC という国内半導体技術の強化を目的とした研究教育支援組織から学科への教育支援として、企業の第一線技術者による寄付講義を受けておりました。講義運営の世話役としてお手伝いする傍らで、同運営マネージャの方からシステム教育のための教育プログラムを開発したいとの相談を受け、当時自動車業界を中心にモデルベースシステム開発の主流となりつつあった MATLAB をベースとしたシステム教育実習講座を開発するという幸運に恵まれました。お陰により、自動車に興味のある意欲的な学生が集まり、白線認識や人物認識のアルゴリズムとその LSI 実装、さらには並列マシンを使った画像認識に興味を持つカナダのブリティッシュコロンビア大学との連携も進み、国際的なプロジェクトへの発展が実現しました。STARC と共同開発によるシステムアルゴリズム開発講座はその後 10 年にわたって、システム技術と半導体の懸け橋となる人材を多く輩出することとなりました。

また、低電力化プロジェクトから派生した蓄電池の最適活用テーマが幸運なことに 2009 年のスマートグリッドブームに乗り、その要素技術研究と社会実証において、環境省、NEDO、JST 等の数々の大型プロジェクトに発展しました。また、20 社以上の企業からの支援により実りある産学連携と技術移転を進めることができました。

企業から大学に移ったときは、のんびりと基礎的な研究をやりたいと思っておりましたが、企業時と同様に貧乏暇なしの 20 年を過ごすこととなりました。思い

返せば、忙しさはあったもののそれらの活動の中で、多くの人と出会い語り合うことができたのは得難い経験であり無形の財産であると思います。運命と出会いに深く感謝いたします。今後は、若い人達の活動を支援するような立場で、今までの幸運を社会還元という形でお返ししていきたいと考えており、さらに貧乏暇なし人生が続くことが予想されます。今後とも相変わらずのお付き合いとご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

退職にあたって

電子情報工学科　助教　孔　祥博

2023年３月末日をもって立命館大学を退職し、４月より講師として富山県立大学に着任いたしました。これまで、立命館の多くの方々にご指導を賜り、心より感謝いたします。

私は2016年４月修士として立命館に進学しました。そして、修士として２年、博士として２年、助教として３年の計７年お世話になりました。中学卒業後、一番長く居たのは立命館であり、ここで学生から社会人に転身し、この場所には深い思い入れがあります。

子供の頃から科学と研究が好きで、電脳サーキットでラジオを自作したり、小型の電動機を使って自走艇のおもちゃを作ったりしていました。また、自分の発想で回路を改善したり、新しい回路を作ったりしていました。原理が理解できずうまくいかないケースが多かったですが、この探索の過程は非常に楽しかったです。中学校と高校時代には物理が得意で、物理について同級生が私に聞いてきた場合、私は自分の知見を共有するようにしていました。役に立てたら、とても意味があると感じます。研究や教育に対する愛着から、自分に適した職業は大学の教員であると考え、自分の夢となりましたが、この夢を叶えるとは思いませんでした。今の私があるのも、立命館の育てあってのことです。

修士から、高齢者の見守りの研究を行いました。同じ研究室ではありませんが、電子情報の孟林准教授から終始熱心なご指導を頂きました。孟先生から、学会発表を始め、さくらサイエンス、オープンキャンパスなどいろいろ対外的活動のチャンスをいただきました。これらの活動を通じて、研究者だけでなく、一般の人々との交流もでき、研究の意義について深く考えることができました。孟先生に深謝いたします。

ご指導を賜る電子情報の冨山宏之教授に深謝の意を表します。冨山研にいた７年間、大変お世話になっておりました。驚いたのは、最初に作成した学会論文は、冨山先生は非常に丁寧に確認し、ほぼ全文を書き直していただきました。修正した論文を読んで、非常に感動し、いい勉強になりました。また、冨山研で、数多くの学会発表、未来博士三分間の発表、阪大、東大との研究交流に参加いたしました。これらの発表、交流で、研究の改善、知見を広げることができました。

助教として着任後、熊木研にも所属いたしました。短い三年間ではありますが、熊木武志教授に大変お世話になっておりました。熊木研は、企業との連携が多く、展示会への参加も多いです。着任するまで、産学連携の経験が少なく、熊木研の一員として、企業交流に参加したり、ET-IoT展示会に参加したりし、非常に良い勉強になりました。熊木先生に深く感謝いたします。

また、授業で学生指導について助言した泉知論教授、福井正博教授、学科長として見守っていただいた馬杉正男教授、久保博嗣教授、藤野毅教授、学外研究関連で授業を調整していただいた教務員の中山良平教授、共同研究していただいた佐保賢志准教授、田中亜実准教授、卒研発表会の準備、中間発表・公聴会のWGでお世話になった河野悠助教、トラン助教、檜作彰良講師、毛利真一郎准教授、田中亜実准教授、大倉俊介准教授、宇野重康教授、研究について議論した吉田康太助教、西川広記助教（大阪大学）、研究室の皆様、事務について教えていただいた電子システム事務室の中山朋恵様、峯本直子様、立命電友会事務局の上田美津子様と岸千津代様に深く感謝いたします。皆様のご助力で、充実した７年を過ごせました。立命館で勉強したことを活用し、社会に貢献したいと思います。最後に、電友会の皆様のご健康とご多幸を祈念しております。2023年４月、立山連峰の雪を眺めつつ、本稿を執筆いたしました。

退職にあたって

電気電子工学科　特任助教　繁田　光浩

2018年４月に電気電子工学科に特任助教として着任以来はや５年の月日が経過しました。

顧みますと、社会環境の変化に翻弄された５年間であったように思います。2020年新型コロナ感染症拡大と緊急事態宣言の発出、外国人の入国制限、22年からのウクライナ紛争…大学を取り巻く状況はめまぐるしく変化しました。こうした社会環境の変化に対して、大学の持つ使命と意義が試された５年間だったともいえます。

私が担当した電気電子工学実験では、対面の実験回数が半減し、学生の不安は計り知れないものがあったと思います。そのため少しでも実験に親しんでもらおうと、自宅で使えるように工夫した実験キットを配布したりもしました。おかげでウェブ授業の回数と共にレポート内容が、質量とも充実するという、うれしい成果もありました。

と言いながらも、ウェブ授業で、実験の持つ意義を受講者に理解してもらえるのかと、自問自答する日々

の連続でした。こうした悩みも、同僚の先生方との情報交換や諸先輩方のアドバイスによって、徐々に解消することができました。そうした方法の中で、特に印象深いものがフェルミ推定です。

この手法は実際の実験授業でも活用しました。まず、実験内容に関してすでに習得している知識と課題を、紐づけしていきます。

例えば、ＲＣ型受動回路に周期的な矩形波を印加した場合に動的特性を解析するためには、周期関数に関するラプラス変換の知識が必要となりますが、フェルミ推定では、ステップ応答の解の知識だけで充分です。次に、知っている知識について、公式を集めます。最後に、その公式を課題に対して整合するように調整します。ここでは立ち上がり／立下りステップに対する解が求めるべき公式です。

その解はそのままでは、不連続になるので、最後に、ステップの不連続点で解が連続になるように、振幅を調整します。

このように、限られた知識でも、活用法次第で、様々な課題に適用範囲を広げることができるようになります。特に実験では、実際に体感できない現象であっても容易に理解を深めることができるようになります。このような例としては、光の回折と放物運動、平面電磁波の偏光状態とリサージュ図、オペアンプを使った微分方程式の解法と光の拡散反射…様々なものがあります。

また、この５年間は、私自身の振り返りの期間ともなりました。学生のころから関心を持っていた、エネルギー問題とのかかわりを、どのように、整理し進めていけばよいかと考える機会になりました。学生時代は、核融合の理論的研究に取り組むことが、唯一の答えであるかのように考えていました。しかし、核融合の、出力電力は、投入電力を超えることはできましたが、その出力は１ｋＷｈ程度にとどまっています。

図らずも会社時代に開発した、液晶テレビは、ＣＲＴの置き換えが進み、少なく見積もっても原子力発電所１基相当分のエネルギーを削減することができたと考えています。

一方で、2000 年までは、右肩上がりだった日本のエネルギー供給量は、ここ 20 年間は増減を繰り返しています。また温室効果ガスによる、地球環境の悪化も、深刻な問題です。こうした現状を打開するためにも、新エネと呼ばれている新しい技術の開発が注目されています。中でも、太陽電池は、ペロブスカイト太陽電池などで日本独自の技術を誇っており、今後の社会実装が期待されている分野です。

幸いにもこの４月からは、電気電子工学科の峯元研究室の研究員として、末席を汚すことになりましたので、精一杯努力していきたいと思っています。

これからも変わらず、どうぞよろしくお願いします。

新任のご挨拶

電子情報工学科

准教授　佐保　賢志

2023 年４月に電子情報工学科に准教授として着任しました、「さほけんし」です。専門はレーダー技術を中心とする波動を用いた計測に関する信号情報処理です。

私は 2014 年より３年間、同じ電子情報工学科に助教として勤務しておりましたので、出戻りとなります。以前所属していた 2014･2015 年度末の卒業祝賀会では司会を仰せつかっておりましたが、この際に電友会の方々に「大変良い司会であった」とお褒めの言葉を頂いたことを印象深い嬉しいことと覚えております。2017 年に他大学に異動しましたが、毎年お送り頂いていた会報を拝読しておりましたので、不在であった６年間も立命電友会を身近に感じておりました。

とはいえ、初めましてという方も多数いらっしゃいますので、改めて自己紹介させて頂きます。私は大分県南端の山間部の奥深くの宇目町（現 佐伯市）の生まれです。小学生くらいの時は山に入り、カブトムシやクワガタムシを採って飼う、木材や石を集めオリジナルの武器や極小な小屋を作る…といった遊びをしていました。そんな生活を送っていた小学生時代に人生に影響を与える２つの出来事がありました。１つ目は小学校２年生のとき、両親が某国民的ネコ型ロボットアニメのキャラクターが登場する算数の漫画を買ってくれたことです。これをきっかけに算数・数学に深くのめりこみ、２年生の１学期の段階では習いたての１桁のかけ算にも苦労していたのですが、その漫画を読破した夏休み後には連立方程式を楽しく解いていたなど、数学の世界に熱中し始めました。２つ目は小学校５年生の時、父が PC を買ってきたことです。もともと上述のように自分の世界を創ることが好きな子供だったので、それを機械一つで実現できるプログラミングの世界に没頭しました。これを極めたいと考え、進路として工業高等専門学校を選択し、数学やプログラミングに加え電磁気学や回路理論などにも没頭しました。それらをもっと極めたいという気持ちから、大学編入、博士号取得、そして大学教員として就職という過程を

自然に経てきました。大学編入後の経緯は前回着任時のご挨拶（会報第43号）で述べておりますので、ご一読頂けますと幸甚に存じます。

研究でも数学・電磁気学などの基礎学問と関わりたいという気持ちが強かったため、電波工学・信号処理を基軸とするレーダーのテーマを選択し、現在もこの分野で研究を続けております。特に車載や屋内監視などのレーダー情報処理において、新しい理論や機能の創出を目指し、学問を純粋に楽しみつつ、ついでに社会貢献もできればと思いながら教育研究に勤しんでおります。レーダーは比較的マイナーな技術ですが、我々のグループではレーダーで計測した微細な歩き方の変化からの認知症リスク判定、立ち方や座り方からの個人特定、トイレや浴室の見守り、運転時の死角からの歩行者飛出しの事前検出など、他のセンサでは実現困難な機能を創出しております。ご興味がある方はぜひお声がけください。

６年前の会報での私の退職挨拶では、少しは恩返しできるようになったタイミングでの異動は非常に心苦しく悔いが残っている、という旨を述べました。この度ご縁があり、恩返しの機会を得られたことは望外の喜びです。不在であった６年の間に、研究室運営、多様な科目の講義や様々な事情を抱えた学生の指導、地域や企業との連携、分野のトップジャーナルへの採択経験など、前回在職時には不十分だったスキルを身に着けるための経験を積みました。これらの経験に基づき、本学･電子システム系･立命電友会への恩返し、そしてその先のさらなる貢献に邁進する所存です。引き続きご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

電気電子工学科

特任助教　下中　淳

2023年４月より電気電子工学科の特任助教として着任いたしました。現在は同学科の１～３年生の電気電子工学実験を担当しております。

私は奈良県内の公立高校を卒業したのち、大阪市立大学（現：大阪公立大学）理学部物理学科に入学し、そこで博士後期課程まで収めました。大学、大学院時代は、素粒子物理の世界に魅せられ、当時世界最高水準の加速器があった高エネルギー物理学研究所（現:高エネルギー加速器研究機構）で未発見のクォーク探索の研究を行っておりました。大型プロジェクトでの研究は毎日が刺激的で、日々新しい何かに近づいている実感に満ち溢れておりました。また、日常生活と研究活動とが一体となったような充実した期間であったと思います。

大学院修了後は、シャープ株式会社へ入社し、中央研究所へ配属されました。シャープ株式会社は赤外半導体レーザを世界に先駆け量産化しており、当時は青色レーザの室温発振に向けた取り組みが盛んになされていたころでありました。そこで初めて光半導体デバイスと出会うこととなります。私の研究テーマは半導体レーザと光導波路などをモノリシック化する光電子集積化技術で、本研究を通じて小型の無線光通信デバイスの実現を目指し企業での研究活動をスタートさせました。幸いによき先輩、上司に恵まれ日々夜遅くまで議論を交わし、レーザや光通信など光エレクトロニクスの知見を深めていくことができました。また国内複数の大学との共同研究や、学術振興会、電子工業振興協会の委員などを経験できたことはその後の企業生活に大変役立っております。

順調かに見えた研究開発でしたが、Bluetoothやメモリーカードといった情報通信技術が開発されたことで終了を迎えることとなります。しかしながらオプトデバイスに強みのあったシャープにあってIrDA（Infrared Data Association）技術の新規格に取り組む機会を得ました。ここでは早稲田大学と共同で総務省の委託研究として研究を進め、最終的にまだ実現できていなかった高速データ転送の新規格の標準化を実現することができました。しかし残念ながら、このIrDA技術も昨今の携帯電話、スマートフォンではほとんど搭載されていないことはご存じの通りです。

その後は、火災報知器センサー、スマートフォン向けのカメラ、同じくスマートフォン向け指紋認証デバイスの開発を手掛け、これらはいずれも実用化されました。他社製のスマートフォンへも搭載されていますので、もしかしたら手にされている方もあるかもしれません。これらの開発においては、開発自体はもちろんの事、品質保証やユーザ対応など苦労も多かったことが印象的でした。また転勤や、単身赴任、海外赴任、そこでの現地スタッフの指導などシャープ時代の後半期には様々な経験ができたことはよかったと思います。

最後になりますが、私は高校生のころより自然への探求心が強く、ものの仕組み、成り立ちを理解したい気持ちが強く、就職先については随分と悩みました。私は人を育てることが最大の社会貢献と考えていましたが、一方、卒業後は自分が得た知識をきちんと社会に還元する必要があるとの考えから、シャープ株式会社へ入社することとなりました。シャープでの企業活動により何かしらの社会貢献ができたのであれば幸いに思います。昨年春、シャープでの活動に区切りをつけ、本学に奉職させていただくこととなり、若い学生諸氏に電気電子工学の指導を通じて、学び知ることの喜びを共有する機会を与えくださいました本学理工学部の先生方へは感謝の気持ちでいっぱいです。今後も電友会会員皆様からの温かいお言葉、時に厳しいご指導ご鞭撻など賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

関東立電会　第 19 回総会報告

2023 年 10 月 14 日　於：立命館東京キャンパス

関東立電会（以下、立電会）は 1980 年に恩師の上京を機に囲む会として始められ、以降 43 年の間に OB/OG による講演会などに進化しつつ続けて来ました。

今年はこの歴史ある立電会の総会は幹事の交代やコロナ禍で 5 年間のブランク後の再開となり、如何にして「次の世代に引継ぐか」の課題を熱く議論する総会となりました。

立電会のコンセプトを「世代を越えた情報交換による相互啓発を促し、親睦を通しての相互連携の機会とし、会員の発展に寄与する」と定義し、次（現役）世代にも参加を促して行くと会則を定めました。

一方、大学として卒業生と継続的にコンタクト出来る受け皿として電友会の其々の地域の組織がその役割を果たすとして、'23 年の電友会総会で議題に上がった東京支部（仮称）設立に対し、立電会は同日付で名称を「立命電友会関東支部」と改め、電友会の地域組織となり、電友会と連携して次世代の会員の参加を促し、企画運営を行うこととし、全員の賛成で承認されました。

講演は現役世代の遠藤寛明様（'15 年卒）から「日本の EV 充電インフラの課題と e-Mobility Power の取り組み」と題し、東京電力 HD から出向されている株式会社 e-Mobility Power での活動並びに海外視察での経験を踏まえ、発表されました。

1. 世界の電動化の動向
2. e-Mobility Power の概要と充電インフラ
3. 日本の充電インフラの課題
4. 課題解決に向けた取り組み

同社は公共充電器の設置・運用・保守管理を行う事業者として東京電力・中部電力と自動車メーカーなどが出資し '19 年に設立された会社であること、日本の EV 車の普及率は中国・欧州に比べ大幅に遅れていること、充電スタンドの普及と表裏一体であることなどが説明され、スタンドを設置する様々な場所の選定、設置工法の開発、規制緩和への取り組みなど、興味深いプレゼンテーションでした。

発表後の質疑応答では、スタンド設置場所や充電時間の問題など、熱い討議がなされました。

総会終了後の懇親会では世代を越えた会話で盛り上がりました。

（1976 年 電気工学科卒 浜崎 博明 記）

2022（令和 4）年度　電子システム系修了生・卒業生進学・進路状況

2023 年 3 月修了・卒業の電子システム系 大学院前期課程・学部の進路状況を表 1 に、就職先一覧を表 2 に示します。

大学院前期課程の修了者は 139 名、学部卒業生は 234 名です。大学院前期課程から 3 名が後期課程に進学しました。学部卒業生のうち 133 名が大学院前期課程に進学し、進学率は約 57% でした（昨年度は 60%、一昨年度は 52%）。しばらく大学院前期課程への進学率が 40% 台まで低下傾向にありましたが、ここ数年は 60% 近くまで高まっています。

大卒求人倍率はコロナ禍直前には 1.83 倍であったものが 2022 年度卒には 1.50 倍まで下がったものの 2023 年度卒では 1.58 倍と緩やかな回復の兆しが見られました。学部卒業生の就職先は、メーカーが 40% 程

度で最も多く、ついでサービス、情報通信、エネルギーが 10 ～ 20% 程度となっています。その他、マテリアル、運輸、エネルギーなど、多岐にわたっています。大学院修了者では、同様の傾向でメーカーが 70% 程度と特に多くなります。職種としては開発職、技術職、SE・IT 職での採用が大半であり、特に院生で高い専門性が求められる研究、設計、開発職への就職率が高くなっています。

経団連は 2021 年度から就職・採用に関する指針（採用活動は 3 月、選考は 6 月開始）を廃止しています。一方で、政府主導にて大学・経済界との協議のうえこの指針がしばらくの期間維持されることになり、文部科学省から申合せ文書が提示されています。しかし、実際には 3 月以前から採用活動を開始する企業もあり、また直接的な採用活動の扱いではないとはいえ OB 訪問や企業セミナー、インターンが実質的には採用選考に直結しているケースも多く見られます。就職活動は早期化かつ多様化してきており、早期から自主的に業界研究や自己分析などの準備をすすめておくことが重要になっています。

理系の特徴的な形態として学校推薦の制度がありますが、旧来の運用に加えて近年では、選考が進んで途中から学校推薦に切り替えるケース、さらには内定後に学校推薦を求めるケースも多くみられるようになっています。一方で、大手の中にも学校推薦を廃し自由応募のみとする企業も出てきています。制度そのものの意義やそのあり方が議論になっています。

キャリアセンタでは、早期化・多様化する就職活動に対して、4・10 月の進路・就職ガイダンス、4 ～ 6 月の企業インターン関連企画、10 ～ 12 月の選考対策企画など、それぞれの時期に応じたガイダンス等企画を実施し、かつ実態に応じた対応を進めています。学科では、卒業生によるキャリアデザインセミナーやキャリア講演会、また電機系・電子系の業界団体による業界説明会など、正課の一部としてキャリア形成支援企画を実施しています。先輩諸氏に置かれましても、より一層のご支援をお願い申し上げます。

（就職委員 泉 知論）

表 1：進学・就職者数一覧　（2023 年 4 月 5 日現在）

		卒修	進学	就職（民間）	就職（公務員）	その他	活動中未報告
大学院	電気電子	79	1	72	4		2
	電子情報	60	2	56		1	1
	計	139	3	128	4	1	3
学部	電気電子	134	76	49	4	5	
	電子情報	100	57	35	2	1	5
	計	234	133	84	6	6	5

表 2：就職先一覧

（大学院修了者も含む）（順不同、敬称略）（2023 年 4 月 5 日現在）

業種	企業名
電子・電機 33 社，67 名	ローム㈱、パナソニック インダストリー㈱、ソニーセミコンダクタソリューションズ㈱、パナソニック㈱、㈱デンソーテン、キオクシア㈱、シャープ㈱、㈱村田製作所、㈱日立製作所、三菱電機エンジニアリング㈱、TSMC デザインテクノロジージャパン㈱、三菱電機㈱、日清紡マイクロデバイス㈱、日本電気㈱、富士電機㈱、SCREEN ホールディングス（旧:大日本スクリーン製造）、イビデン㈱、エイブリック㈱、オプテックス、オムロン㈱、セイコーエプソン㈱、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱、パーソル AVC テクノロジー㈱、パナソニック　エナジー㈱、ファナック㈱、マイクロンメモリジャパン㈱、横河電機㈱、㈱GS ユアサ、㈱キーエンス、㈱ダイヘン、㈱デンソーウェーブ、京セラ㈱、日本電気化学㈱
情報処理・ソフトウエア 33 社，37 名	NEC ソリューションイノベータ㈱、Sky ㈱、中央コンピューター㈱、NEC ネッツエスアイ㈱、TIS ㈱、アイテル㈱、オリックス・システム㈱、ダイナテック㈱、パナソニック ITS ㈱、フィラーシステムズ㈱、リックソフト㈱、（財）岐阜県市町村行政情報センター、㈱ CIJ、㈱ NS ソリューションズ中部、㈱ NTT データ、㈱ NTT データ MHI システムズ、㈱ NTT データ MSE、㈱アイソルート、㈱インテック、㈱インビリティー、㈱ヴィッツ、㈱ NTT データ北陸、㈱ジャステック、㈱トヨタマップマスター、㈱ネオ、㈱日本制御エンジニアリング、㈱日立ソリューションズ、三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー㈱、日軽情報システム㈱、日本システム技術㈱、日本電気航空宇宙システム㈱、日本電気通信システム㈱、豊田通商システムズ㈱
機械・プラントエンジニアリング 11 社，18 名	ダイキン工業㈱、パナソニック　オートモーティブシステムズ㈱、パナソニック　コネクト㈱、㈱クボタ、㈱不二越、東京エレクトロン㈱、キヤノンマシナリー㈱、ナブテスコ㈱、㈱高津製作所、㈱椿本チエイン、山九㈱
自動車・輸送用機器 12 社，16 名	㈱アイシン、デンソーテクノ㈱、トヨタ自動車㈱、ダイハツ工業㈱、ボッシュ㈱、ヤマハ発動機㈱、㈱安永、㈱豊田自動織機、三菱自動車工業㈱、日立 Astemo ㈱、豊田鉄工㈱、本田技研工業㈱

業種	企業名
エネルギー 6 社，13 名	北陸電力㈱、関西電力㈱、東京電力ホールディングス㈱、九州電力㈱、九州電力送配電㈱、中部電力㈱
精密機器・医療用機器 5 社，6 名	㈱堀場エステック、テルモ㈱、㈱イシダ、京セラ SOC ㈱、高島産業㈱
通信関連 5 社，6 名	㈱ NTT ドコモ、㈱エクシオモバイル、㈱オプテージ、中部テレコミュニケーション㈱、日本電信電話㈱
素材・化学・ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 4 社，6 名	旭化成、AGC ㈱、日本ガイシ㈱、日本特殊陶業㈱
鉄鋼・非鉄・金属製品 4 社，4 名	㈱ UACJ、㈱ UACJ 製箔、㈱竹中製作所、住友電気工業㈱
情報・インターネットサービス　4 社，4 名	ジェイズ・コミュニケーション㈱、㈱シーエスデー、㈱メンバーズ、京セラコミュニケーションシステム㈱
運輸　4 社，4 名	全日本空輸㈱、近畿日本鉄道㈱、阪急阪神ホールディングス㈱、東日本旅客鉄道㈱
建設・住宅・不動産 3 社，3 名	㈱ボルテックス、㈱大林組、㈱竹中工務店
銀行　3 社，3 名	オリックス銀行㈱、㈱福岡銀行、三井住友信託銀行㈱
その他 20 社，25 名	大同生命保険㈱、宮野医療器㈱、富士フイルムイメージングシステムズ㈱、jpeg ㈱、ZEIN ㈱、アクセンチュア㈱、ソフトバンクグループ㈱、㈱アウトソーシングテクノロジー、Modis ㈱、マンパワーグループ㈱、㈱ウイルテック、日研トータルソーシング㈱、㈱メイテック、オムロンソーシアルソリューションズ㈱、パーソルエクセル HR パートナーズ㈱、㈱日立ビルシステム、㈱電通、（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構、その他外国企業
公務員 10 名	国家公務員一般職（経済産業省、国土交通省）、国家公務員総合職（国土交通省、特許庁）、吹田市、福岡県庁、兵庫県人事委員会事務局、名古屋市人事委員会、警視庁、滋賀県警察本部

立命電友会 2022 年度（令和 4）年度入会式開催

（オンライン形式）

立命電友会　入会式にあたり、お祝いの言葉として

立命電友会会長　森岡泰雄

大学ご卒業、大学院ご修了の皆様、おめでとうございます。

ご就職、ご進学とそれぞれ新しい社会に飛び立つ皆様に、幸あれと祈念いたします。

立命電友会は草創期の私立電気工学講習所以来、皆様方、立命館大学理工学部電気電子工学科および電子情報工学科、立命館大学大学院理工学研究科の電気電子関係研究室に在籍された方を会員としており、春の卒業式・学位授与式に合わせて入会式を行なって、入会を歓迎しています。本来でしたら、対面での入会式にて、お祝いすべきなのですが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、文書でのお祝いになることをお許しください。

さて、これからは、皆様には、新しい人生のはじまりとなるのですが、今までとは違い、何かと自分で課題を見出し、分析、検討して、解決策や対処法を検討、その実施を提案して、実行に移し、結果についても検証、推移を確認し、目的を達成するよう、軌道修正していくことが求められるようになります。大学で、先生方から、教わった学力、研究力をベースに日々変化する社会に合わせて、自分独自あるいは周りのメンバーと協力して活動をすることになります。溢れかえる情報をそのまま信じ込むのではなく、自分で考え、周りと議論し、信念をもって行動して頂きたいと願います。

とは言っても、何度か壁にぶつかり、思い悩むことがあるかと思います。そういった時に損得抜きで相談ができるのが、大学時代の友人や同窓会の仲間です。立命電友会も日本各地、世界各地に様々なご経験を持った 15,000 名を超える会員がおられます。同じ大学、同じ学科で学んだ共通の太い絆があり、相談すれば、何か、きっと良い解決策やヒントが見つかるのではと思います。

最後に大学全体の同窓会組織である立命館大学校友会は、母校支援、後輩支援を目的として設立されました。それは我々、立命電友会もその一つである学部学科同窓会、都道府県校友会、海外校友会、地域校友会、職域校友会、各種グループ校友会も同じです。母校の健全な存在、発展があってこその同窓会、校友組織です。現役学生をはじめ母校支援に加えて、卒業して間もない校友への後輩支援についても重要視しています。皆さんも是非、積極的にご参加頂き、母校支援とともにご自身のネットワーク形成にお役立て下さい。

立命電友会　2022 年度入会式・オンライン形式の様子

2022 年度 学業成績および研究活動 表彰者一覧

下記の通り、合計 33 名
（うち 1 名は学業成績部門で最優秀賞、研究活動部門で優秀賞）

学業成績 部門

●学 部 生（最優秀賞）計 2 名

服部　翔太（電気電子工学科）　上田　澪（電子情報工学科）

研究活動 部門

●大学院生（最優秀賞）計 10 名

大幡　孝融　塚田　拓海　黒田　訓宏　松田　汐利
嶋田　知泰　山藤　祐人　城　千春　Li Qi
田中　大貴　趙　意琳

●大学院生（優 秀 賞）計 7 名

太田　盛斗　豊田　晃紀　佐野　正樹　錦見　健太
菅原　英治　水野　拓己　大釋　弓香

●学 部 生（最優秀賞）対象者なし

●学 部 生（優 秀 賞）計 15 名

有田　英司　堺　美華　石橋　龍人　佐橋　拓哉
上田　澪　塩見　拓真　小嶋　貴樹　服部　太政
尾野　優雅　藤原　雄太　河上　智久　松井　敦己
倉友　遼太　森浦　健斗　小林　慎平　以上

学系だより

●退 職

道関	隆国	教授	令和５年３月31日、退職
福井	正博	教授	令和５年３月31日、退職
孔	祥博	助教	令和５年３月31日、退職
繁田	光浩	助教	令和５年３月31日、退職

●新 任

佐保	賢志	令和５年４月１日、電子情報工学科 准教授に着任
田中	亜実	令和５年４月１日、電子情報工学科 准教授に着任
檜作	彰良	令和５年４月１日、電子情報工学科 任期講師に着任
下中	淳	令和５年４月１日、電気電子工学科 特任助教に着任

退職のご挨拶

電子システム系　学系事務　峯本　直子

2023年3月に契約期間満了をもって電子システム系事務室を退職いたしました。

契約職員、産休代替の派遣期間とあわせて６年間、多くの方々との出会いに恵まれ、たくさんの支えにより任期を満了できたこと、心より御礼申し上げます。

2017年３月、派遣職員として初めて大学事務のお仕事に従事することになりました。勤務初日から、“峯元先生のご家族ですか？”と、出会う方々に質問をされたこと、とても懐かしく思います。そして、あっという間に過ぎた１年の派遣期間満了の直前に、当時事務長をされていた山田さんからお声掛けいただき、次年度から契約事務職員として引続き電子システム系事務室で勤務させていただくことになりました。

電子システム系事務室での６年間、とても充実した日々を過ごすことができました。学生よりも先生方と過ごす時間が多い事務室であるためか、教育・研究以外にも出張先での出来事やご趣味のお話など、多岐にわたった話題で、毎日が楽しく学びの日々でもありました。

しかし、2019年度末にコロナ禍がはじまり、これまで電子システム系事務室で引き継がれてきた多くの業務へも影響することとなり、強制的に変化を求められる状況となってしまいました。コロナ禍では、先生方の業務や学生の皆さんへの対応など、円滑に進められるよう試行錯誤しました。コロナ禍を経た今、オンライン授業や会議などいろいろなところでデジタル化が進み、便利な部分を残しながらも世界に通用する教育を提供する場所であり続けてほしいと願っています。

私自身の今後については、また新たな挑戦をしていく中で、皆様方から学んだことを糧として、日々精進し続けていく所存です。

最後になりますが、６年間お世話になりました先生方、卒業生、在校生ならびに立命電友会の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念し、退職のご挨拶とさせていただきます。

訃 報

昭24卒	藤座	辰之助	令和４年７月31日
昭30卒	柴田	卓男	令和５年２月14日
昭33卒	池田	嗣郎	令和４年
昭34卒	山下	恭之	令和４年８月
昭35卒	三浦	安宅	令和５年６月12日
昭35卒	加門	諒一郎	
昭36卒	川口	量	令和２年12月６日
昭36卒	山岡	嘉男	令和５年11月30日
昭37卒	廣瀬	治	令和３年
昭37卒	藤本	一虎	令和４年４月24日
昭38卒	村田	文治郎	
昭38卒	嶋田	壽一	令和５年５月４日
昭39卒	八十島	二千六	
昭41卒	中井	茂	令和３年７月21日
昭41卒	久保田	嘉一	令和５年８月29日
昭42卒	土橋	英雄	令和２年
昭42卒	森田	弘	令和５年３月25日
昭44卒	藤原	弘	
昭44卒	渡辺	好郎	令和５年５月23日
昭44卒	中村	勉	
昭46卒	近藤	寛	

（敬称略）

ご冥福をお祈り申し上げます

事務局だより

立命電友会会報60号の発行にあたり、ご寄稿を頂きました皆様に対し心よりお礼を申しあげます。

今後も会報内容充実に一層の努力を重ねて参りたいと考えております。どうぞ、会員の皆様の積極的なご寄稿を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。ホームページから変更受付しておりますのでご活用下さい。

（上田・岸）

立命電友会連絡先

〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部電子システム系内
立命電友会事務局　川畑　良尚
上田　美津子（月・木）
岸　千津代（月・木）
電　話：077（561）2554　FAX：077（561）2663
e-mail：den-yu@st.ritsumei.ac.jp
http://ritsumei-denyukai.com/

（会報の題字は久保之俊氏）